

平成27年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成27年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成27年4月21日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	79 人	国語B	80 人
② 数学A	78 人	数学B	78 人
③ 理科	78 人		

5 留意事項

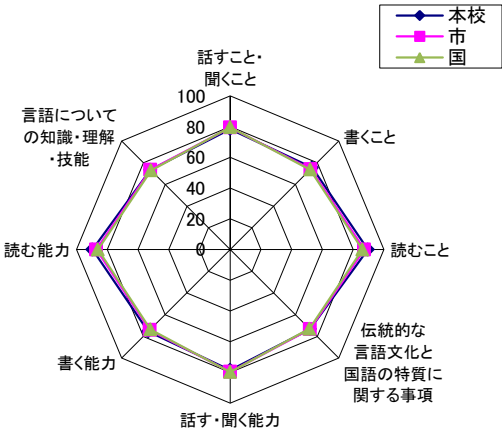
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

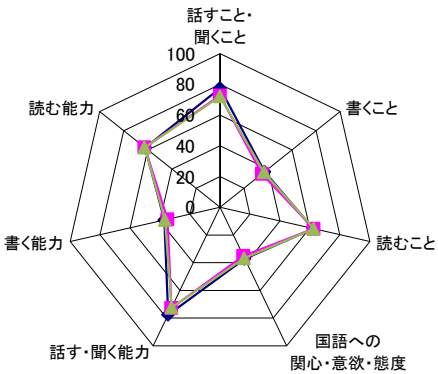
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	78.5	79.5	79.7
	書くこと	75.4	74.1	73.6
	読むこと	89.6	87.2	86.1
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	73.4	73.4	72.9
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	78.5	79.5	79.7
	書く能力	75.4	74.1	73.6
	読む能力	89.6	87.2	86.1
	言語についての知識・理解・技能	73.4	73.4	72.9



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	77.5	72.8	72.2
	書くこと	37.1	35.0	36.7
	読むこと	62.3	62.6	62.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項			
観点	国語への関心・意欲・態度	37.1	35.0	36.7
	話す・聞く能力	77.5	72.8	72.2
	書く能力	37.1	35.0	36.7
	読む能力	62.3	62.6	62.6
	言語についての知識・理解・技能			



★国語に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「国語の授業が好き」で「国語の授業は大切だと思う」生徒の割合は高く(93. 6ポイント)、「読書は好き」な生徒は、栃木県の平均を4. 7ポイント上回り79. 5ポイントであった。
●「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか」は、栃木県の平均を5. 9ポイント下回った。

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

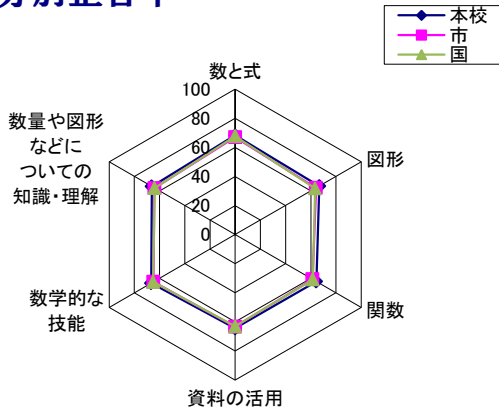
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「聞き手を意識し、分かりやすい語句を選択して話す」や「状況に応じて、資料を活用して話す」は、栃木県の平均を3ポイントから7ポイント上回ることができた。 ●「必要に応じて質問しながら聞き取る」は栃木県の平均を4. 6ポイント下回った。	・聞き取りのテストにおいて、設問内容について聞き取るだけでなく、より確認したい(質問し直したい)ことなどもメモしながら聞けるような聞き取りテストを推進していく。
書くこと	○「目的に応じて要旨をとらえる」や「伝えたい事柄が明確になるように文章の構成を考える」は、栃木県の平均を8～9ポイント上回った。 ●「文章の構成や展開などを踏まえ、根拠を明確にして自分の考えを書く」は、栃木県の平均を3. 3ポイント下回った。	・各単元において自分の意見や考え、感想などを書くときには、その考えの基となる根拠を、はっきりと意識させて書かせるよう指導していく。
読むこと	○「伝えたい事柄が明確になるように文章の構成を考える」や「表現の工夫について自分の考えを持つ」は、栃木県の平均を4～8ポイント上回った。 ●「文章の中心的部分と付加的部分などを読み分け、要旨をとらえる」は、栃木県の平均を3. 5ポイント下回った。	・各単元の中でも、小さく部分を分けて要旨をとらえる機会を多く持つ。要旨をとらえるときには、中心的なところと付加的なところかを分けて確認しながら要旨をまとめていく練習をさせていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○「シャツの袖をまくる」の読みや、「私が先生のお宅に参ります」の敬語の使い方は、栃木県の平均を3～5ポイント上回った。 ●「青さ」の品詞名の識別は、栃木県の平均を8. 2ポイント下回った。	・語彙力を高めていけるように、ことわざや慣用語の学習だけでなく、和語漢語などいろいろな言葉を理解しながら授業を進められるよう、語彙について積極的に質問できるような雰囲気を作り、お互いに教えあえるようにしていく。

宇都宮市立城山中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

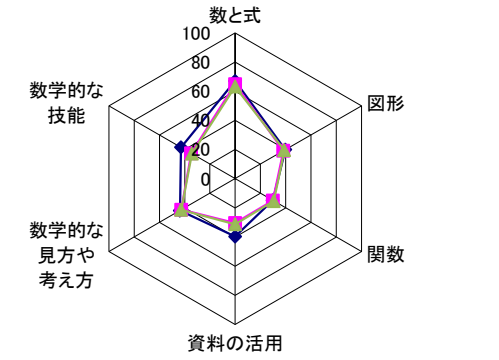
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	68.2	67.0	67.7
	図形	66.8	64.1	63.4
	関数	64.4	61.4	61.7
	資料の活用	64.4	63.3	63.0
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	66.7	64.8	65.0
	数量や図形などについての知識・理解	66.2	64.0	63.9



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	67.0	64.8	63.2
	図形	39.7	38.3	39.0
	関数	29.7	29.9	30.7
	資料の活用	39.7	30.4	31.2
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	43.8	42.6	42.8
	数学的な技能	42.9	34.9	34.2
	数量や図形などについての知識・理解			



★数学に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○ほぼすべての設問について、「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」とを合わせた肯定的な回答の割合が栃木県（公立）と全国（公立）の値を上回っている。特に、数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えようとする生徒が8割を超えており、粘り強い考え方ができるようになってきた。

●数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用しようとする生徒は昨年度より1割程度増加しているが、5割程度であり、自分の考え方や解き方をノートに書いてある生徒の割合は全国や県の平均を下回っている。これからの課題ととらえ、日常の中でどのように数学が活用されているのか、授業でふれたり、解き方や考え方を説明するだけでなくわかりやすくまとめるよう指導していきたい。また、授業のはじめに目標が示されていた感じない生徒が36%程度おり、授業の振り返る活動では40%の生徒があまり行っていないと感じている。このことをふまえ、目標を板書や掲示するなど工夫して生徒に知らせるようにすると共に、単元ごとに学習内容を振り返る活動に力を入れていきたい。

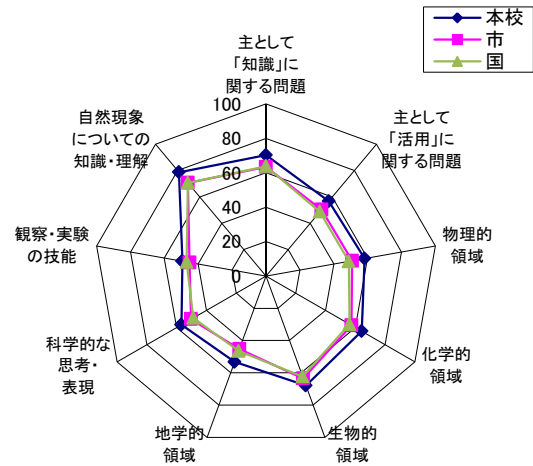
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○県や全国とほぼ同程度の正答率である。連続する数の和について成り立つ事柄を表現する問題では、全国平均を上回っている。 ●数量の関係を文字式で表す問題では、全国や県の平均を上回っているが、23%と低い正答率であった。	・式を作り出す力はあるので、それをどのような手順で解いていくのかについて、丁寧な指導していく。
図形	○県や全国とほぼ同程度の正答率である。条件を変えた場合についての証明では、全国平均を上回っている。 ●図形に着目して考察した結果を基に問題解決の方法を図形の性質を用いて説明する問題は正答率16.7%で、県や全国の平均を3%程度下回っている。また、直方体において、与えられた辺に垂直な面を書く問題では、県の平均を下回った。	・平面、空間における位置関係を考える問題には、より定着するよう、定期的に復習するよう心がける。文章問題では、無回答も多く見られた。問題文から、必要な情報を取り出すことを重点に指導していく。
関数	○県や全国とほぼ同程度の正答率である。グラフから道のりを読み取る問題の正答率は9割であった。また、数学Bでは、おうぎ形の中心角と半径の関係を求める問題では正答率が5割程度と高い数値を示した。 ●事象を式の意味に即して解釈し、その結果を数学的な表現を用いて説明する問題は正答率が10%程度と低い数値を示した。	・関数全般で見ると、基礎的内容は理解できていると思われる。活用問題では、持っている知識を、どこでどのように使っていくのかということを重点的に指導していく。
資料の活用	○県や全国とほぼ同程度の正答率である。中央値を求める問題や、多数回の試行の結果から確率を求める問題は正答率は県や全国の平均を上回っている。また、与えられた情報から必要な情報を選択し、処理する問題では、県や全国の平均を大きく上回っている。 ●度数分布表について、ある階級の度数を求める問題は、県や全国の平均を下回った。	・基本的な考え方は身に付いているが、相対度数や確率を計算で求める問題ができていない。計算を利用した考え方を詳しく指導していく。

宇都宮市立城山中学校 第3学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
枠組み	主として「知識」に関する問題	70.3	63.3	63.8
	主として「活用」に関する問題	56.8	50.3	48.8
分野等	物理的領域	58.2	50.9	48.9
	化学的領域	64.3	57.5	56.2
	生物的領域	67.9	63.4	62.2
	地学的領域	53.2	45.2	46.4
観点	自然現象への関心・意欲・態度			
	科学的な思考・表現	56.8	50.3	48.8
	観察・実験の技能	49.4	45.1	46.8
	自然現象についての知識・理解	78.7	70.6	70.6



★理科に関する質問紙調査の状況

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○ほぼすべての設問について、「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」とを合わせた肯定的な回答の割合が栃木県（公立）と全国（公立）の値を上回っている。特に、「自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか」と「観察や実験を行うことは好きですか」については、肯定的な回答の割合が90%を超えている（「当てはまる」と回答した割合は60%以上）。日頃から自然に親しみ、授業での観察や実験に意欲的に取り組んでいる本校の生徒の実態が数値として表れていると考えられる。

●「理科の授業で、自分の考えや考察をまわりの人に説明したり発表したりしていますか」について、肯定的な回答の割合が50%に達していない。普段の授業の中で、生徒自身による言語活動の機会をさらに増やし、科学的に考えて表現する能力を育てていきたい。また、「将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思いますか」については、肯定的な回答の割合が30%にとどまっている。この問題については、各学校単位のレベルだけで解決できる問題ではなく、国の施策等とも深く関わってくる問題だとは思いますが、日頃の授業の中でも積極的に理科や科学技術のプラス面についてより多くとりあげていきたい。

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物理的領域	○すべての設問について、栃木県（公立）と全国（公立）の値を上回っている。 ●実験の結果を分析して規則性を見出すことや、仮説に基づいて実験を計画することに課題がある。	・知識・理解を深める学習活動を基本に、今後は学習した内容を目的や場面に応じて活用できる能力を育てるために、観察や実験の結果の予想や、結果から考察したことを生徒自身の言葉によって説明させるような学習活動の機会を増やしていきたい。
化学的領域	○すべての設問について、栃木県（公立）と全国（公立）の値を上回っている。 ●実験の結果を分析して規則性を見出すことや、仮説に基づいて実験を計画することに課題がある。	・知識・理解を深める学習活動を基本に、今後は学習した内容を目的や場面に応じて活用できる能力を育てるために、観察や実験の結果の予想や、結果から考察したことを生徒自身の言葉によって説明させるような学習活動の機会を増やしていきたい。
生物的領域	○主として「知識」に関する問題について、栃木県（公立）と全国（公立）の値を上回っている。 ●主として「活用」に関する問題について、栃木県（公立）と全国（公立）の値に達していないものがある。特に、授業でとりあげなかった材料を用いての、未知の実験に関する設問に対しては正答率がよくなかった。	・知識・理解を深める学習活動を基本に、今後は学習した内容を目的や場面に応じて活用できる能力を育てるために、観察や実験の結果の予想や、結果から考察したことを生徒自身の言葉によって説明させるような学習活動の機会を増やしていきたい。
地学的領域	○1つの設問以外の設問について、栃木県（公立）と全国（公立）の値を上回っている。 ●他者の考察を検討して改善し、成因について正しく説明することに課題がある（正答率が30%に達していない）。	・知識・理解を深める学習活動を基本に、今後は学習した内容を目的や場面に応じて活用できる能力を育てるために、観察や実験の結果の予想や、結果から考察したことを生徒自身の言葉によって説明させるような学習活動の機会を増やしていきたい。

宇都宮市立城山中学校第3学年生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

・どの項目も県や全国の割合と同程度で同じような傾向である。

○いじめはどんな理由があってもいけないことであると答えた生徒の割合は95%であった。また、学校の規則を守っていると答えた生徒の割合は90%であった。日々の教育活動で規範意識が育っていると考えられる。この意識をより高めるために、日常の生徒の様子に目を配り、適切な指導をして聞くことを心がけていきたい。

○朝食を毎日食べているか、毎日同じ時刻に寝ているかなどの問いに対する肯定割合が高い。

○自分には、よいところがあると答える割合は74.4%で県や全国と比べても高い数値を示している。特に、あてはまると答えた割合では10%程度県や全国の平均を上回っている。今後も、自分の良さを考えさせ、褒めて伸ばす指導を継続していく。

●80%の生徒が読書が好きと答えているが、1日あたりの読書の時間について、全く読んでいないと答えている生徒は25.6%となっている。学校での朝の読書の時間を利用し、学校での読書のあり方について指導していく。

●生徒たちは、ニュースを新聞ではなく、スマートフォン等の機器を使って、知る傾向がある。時間的には約5割の生徒が1時間程度メールやインターネットを行っている。携帯電話等は持たせない方向で指導を継続していくが、すでに生徒に持たせている家庭には、保護者会等機会を捉えて、①使い方のルールを決めること②ネットトラブルに巻き込まれないようにすること③巻き込まれたときの対処法等について啓蒙をはかっていく。